

社会的老化の経時的データ

古谷野 亘 (聖学院大学)

第 29 回日本老年学会総会 シンポジウム I

「高齢者に関する定義の再検討 — 老年学会・老年医学会 WG の論議をふまえて」

2015.6.

社会生活の加齢変化は、理論的には、社会的地位と役割の変化としてとらえられる。たとえば、職業生活からの引退は職業上の地位・役割の喪失である。一般に地位と役割は年齢に応じて配分されているため、特定の年齢の人々が、ある特定の地位・役割の変化を経験しやすい。身体機能や認知機能の加齢変化については、それを遅らせることが望ましいとすることができる。しかし、社会生活の加齢変化の場合は、遅らせることが望ましいとは限らない。たとえば、職業生活から引退せずに「生涯現役」でいることより、現役時代に実現できなかった活動を開始するほうが望ましいということもありうる。さらに、加齢変化に見られるコーホート差よりも、その時々々の社会・経済的条件の影響のほうが大きいこともある。このような制約があることを前提としたうえで最近 20 年ほどの間の変化を見ると、就業率の低下と同居率の低下、所得格差の縮小を指摘することができるであろう。

社会的老化の経時的データ



聖学院大学 古谷野 亘



1

- 社会生活の加齢変化は、理論的には、社会的地位と役割の変化としてとらえられる。

2

- 社会生活の加齢変化は、理論的には、社会的地位と役割の変化としてとらえられる。
→ この変化は暦年齢で決まるものではない。
しかし、現代社会では暦年齢で「老いた人」の定義をすることが広く行われている。

3

- 一般に地位と役割は年齢に応じて配分されているため、特定の年齢の人々が、ある特定の地位・役割の変化を経験しやすい。

4

- 一般に地位と役割は年齢に応じて配分されているため、特定の年齢の人々が、ある特定の地位・役割の変化を経験しやすい。
→ 現代社会では暦年齢での定義の方が優先されるようになっている。

5

- 一般に地位と役割は年齢に応じて配分されているため、特定の年齢の人々が、ある特定の地位・役割の変化を経験しやすい。
→ 現代社会では暦年齢での定義の方が優先されるようになっている。

6

それは本末転倒ではないか？
定義が現実合わなくなったらどうする？

- 社会生活の加齢変化にも、おそらくコーホート差はある。

7

- 社会生活の加齢変化にも、おそらくコーホート差はある。
- 社会生活の加齢変化の場合、時代差の影響が非常に大きく、aging effect, cohort effect, period effect を分離するのが困難である。

8

- 社会生活の加齢変化にも、おそらくコーホート差はある。
- 社会生活の加齢変化の場合、時代差の影響が非常に大きく、aging effect, cohort effect, period effect を分離するのが困難である。
- かなり大きな地域差もある。

9

- 社会生活の加齢変化の場合、それを遅らせることが望ましいとは限らない。

10

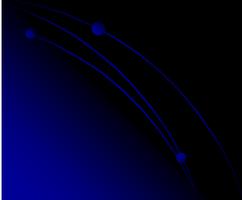
- 社会生活の加齢変化の場合、それを遅らせることが望ましいとは限らない。
→ 個人にとっても

11

- 社会生活の加齢変化の場合、それを遅らせることが望ましいとは限らない。
→ 個人にとっても
社会にとっても

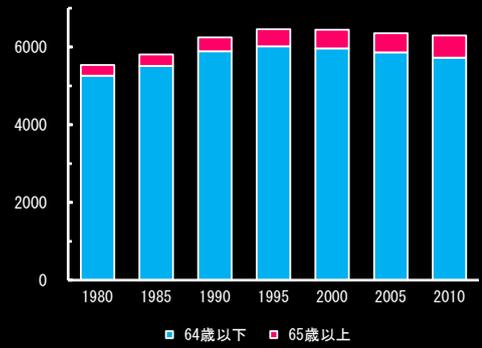
12

職業からの引退



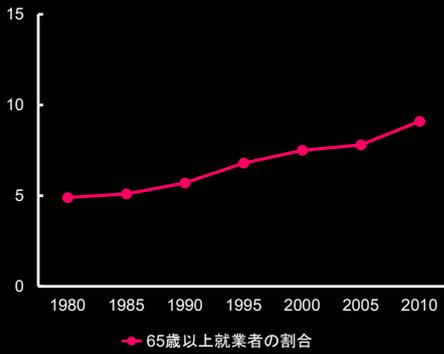
13

就業者数の推移



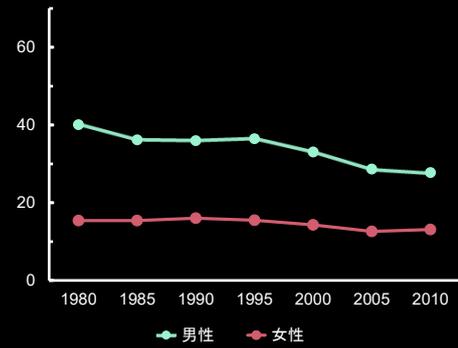
14

就業者に占める65歳以上就業者の割合



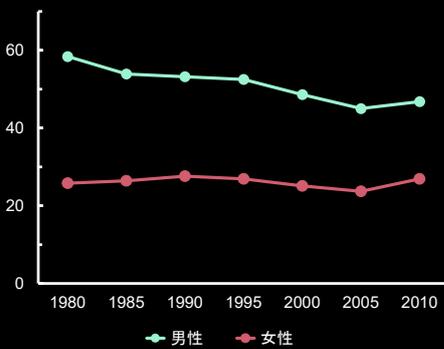
15

65歳以上人口に占める就業者率の推移



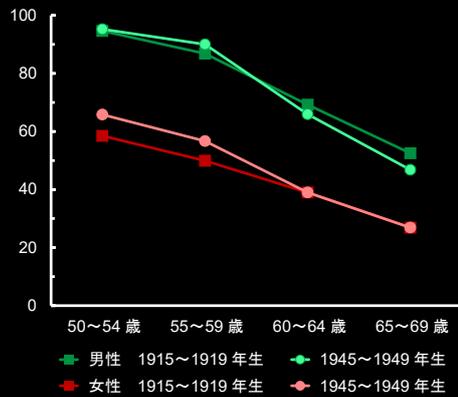
16

65～69歳人口に占める就業者の割合



17

就業者率にみられるコーホート差



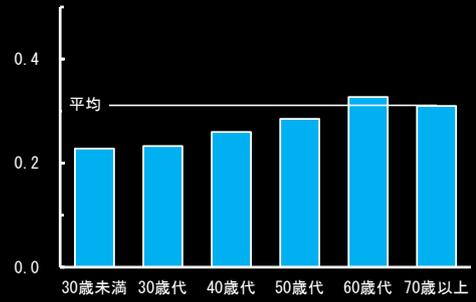
18

所得の不平等



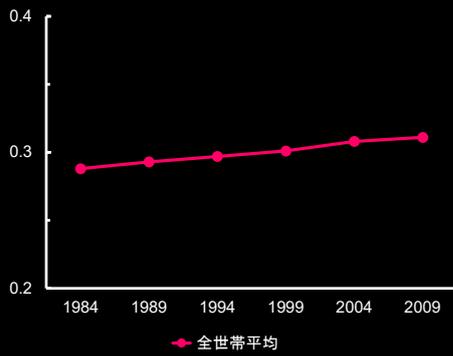
19

世帯主の年齢別にみた年間所得のジニ係数 (2009年)



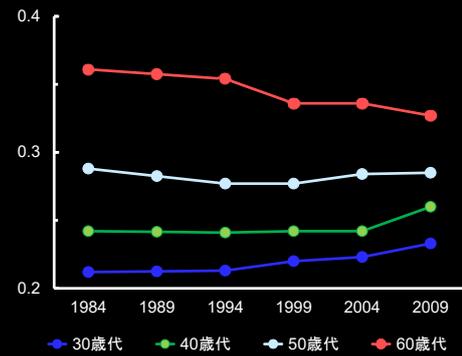
20

年間所得のジニ係数の推移 (全世界平均)



21

年間所得のジニ係数の推移 (世帯主の年齢別)



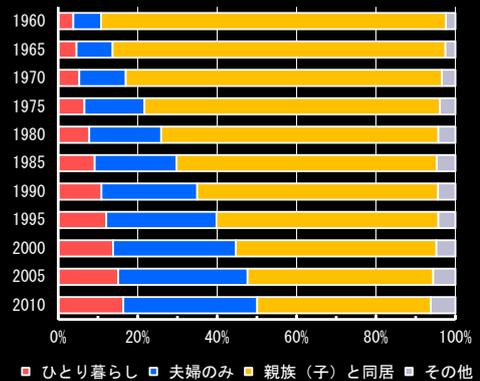
22

家族構成の変化

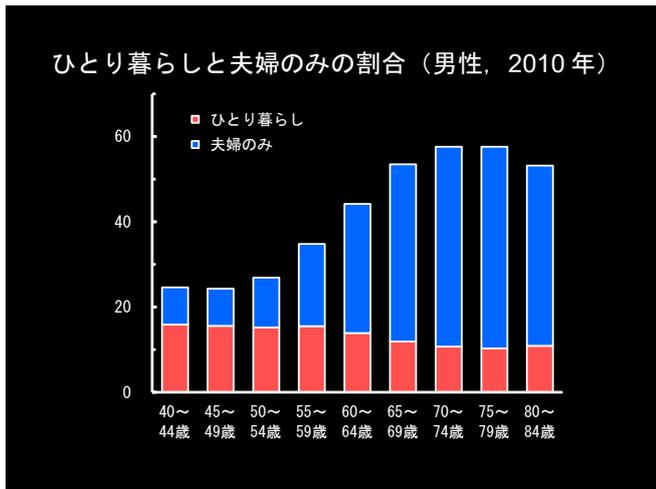


23

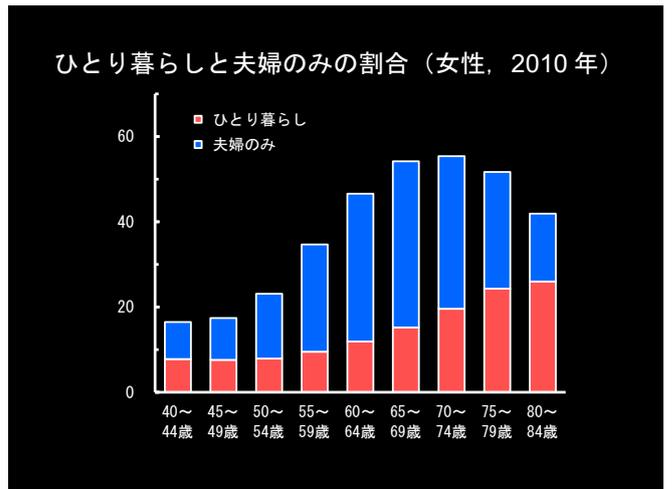
65歳以上高齢者の家族構成



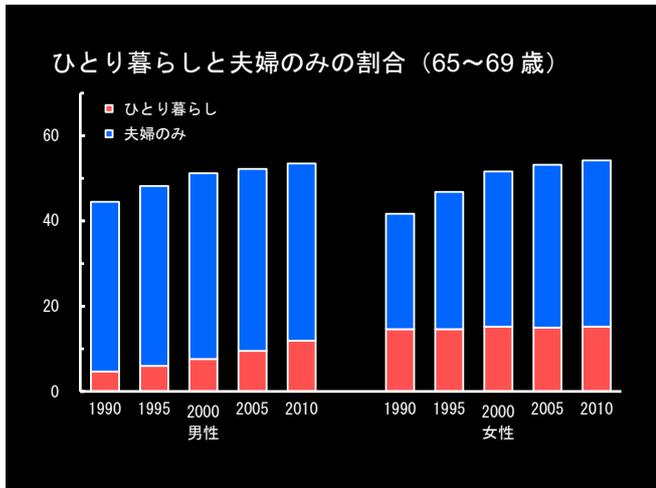
24



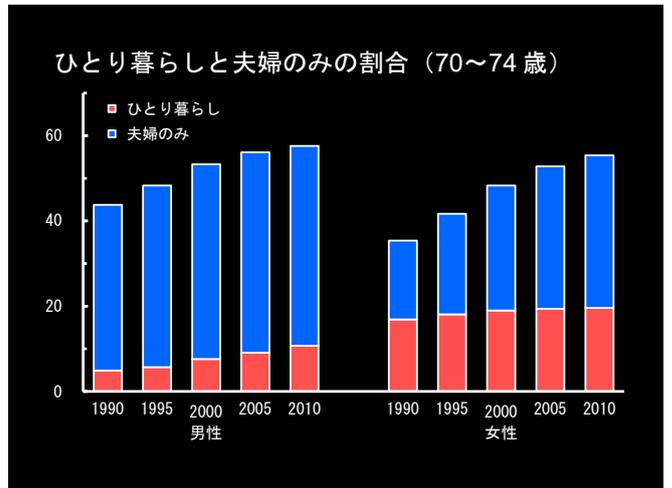
25



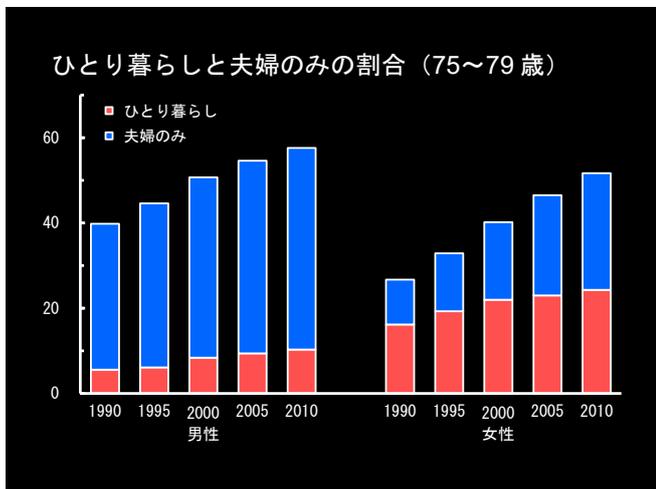
26



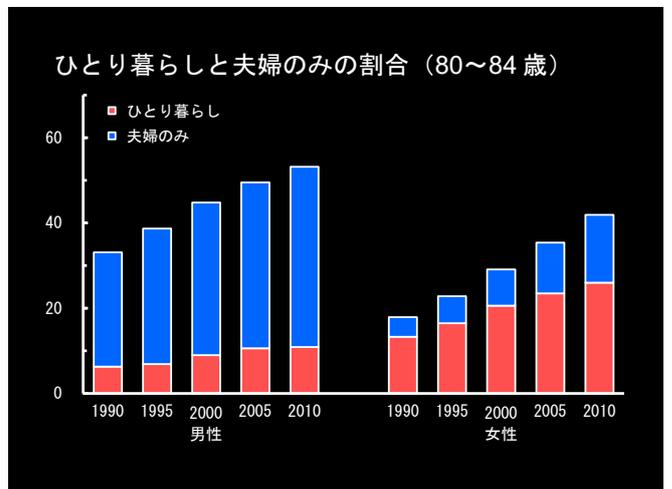
27



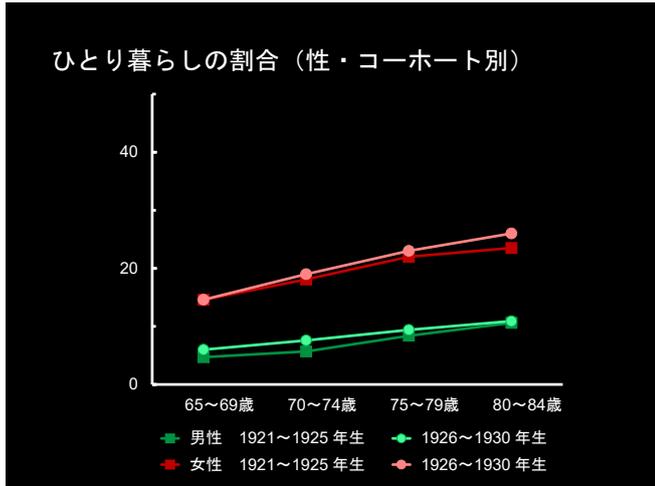
28



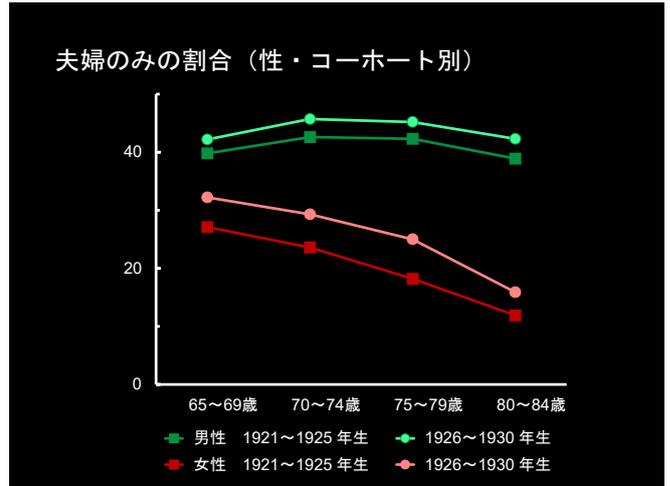
29



30



31



32

まとめ

33

まとめ

- 社会学的には、加齢にともなう社会的地位と役割の変化がエイジングである。

34

まとめ

- 社会学的には、加齢にともなう社会的地位と役割の変化がエイジングである。
- 特定の社会的地位と役割の変化を経験した人が「老いた人」である。

35

まとめ

- 社会学的には、加齢にともなう社会的地位と役割の変化がエイジングである。
- 特定の社会的地位と役割の変化を経験した人が「老いた人」である。
- 現代社会では暦年齢で「老いた人」の定義をすることが広く行われている。さらに、暦年齢によって地位・役割の加齢変化が起こり、その変化も少なくない。

36

まとめ

- コーホート差によって暦年齢による「老いた人」（≡「高齢者」）の定義が現実に合わなくなることは当然ありうる。そこで、定義の見直しが必要になることもある。

37

まとめ

- コーホート差によって暦年齢による「老いた人」（≡「高齢者」）の定義が現実に合わなくなることは当然ありうる。そこで、定義の見直しが必要になることもある。
- 社会生活の加齢変化にも、おそらくコーホート差はある。しかし、時代差の影響が非常に大きいため、aging effect, cohort effect, period effect を分離するのは困難である。

38

まとめ

- 社会生活の加齢変化の場合、それを遅らせることが望ましいとは限らない。

39

社会的老化の経時的データ



聖学院大学 古谷野 亘



40